



## 地域概要

浜中町は北海道東部に位置する水産業と酪農が基幹産業の町である。

コンブとエゾバフンウニが水揚全体の6割を占めるが、これらの採捕時期は限定的である。そのなかで、アサリは冬季の貴重な収入源であり、水揚全体の3%を占めている。



アサリ漁場となる火散布沼（ひちりっぷぬま）と藻散布沼（もちりっぷぬま）は水深の浅い半閉鎖性の汽水域で、火散布沼においてはアサリ漁場の減少や死骸の蓄積、食害生物の台頭、藻散布沼においては過密状態と底質悪化が課題であった。特に藻散布沼においては、過密であるがゆえにアサリが漁獲サイズ3.5cmにまで成長せず、漁業による資源の新陳代謝や漁場の耕うんなどがなされなくなり、より状況が悪化していく負のスパイラルに陥っている。

## 活動方針

上記の通り、当地の2つの活動海域ではその課題が異なる。そこで、①火散布沼においては当該干潟保全に際する重要生物であるアサリの生息域を維持・拡大する方針、②藻散布沼においては過密となっている資源をより漁場として条件のよい火散布へ移植することで密度管理をする、2つの方向性を掲げている。なお、計画更新のR3年度からは、①藻散布沼を活動範囲に加えたこと、②活動範囲を精査したことに加え、③自主活動として長年実施している教育活動を本事業で位置づけた。

## 活動実績

### (1) 客土

既存漁場のうち、海草類の密植や泥の堆積などにより、アサリの生育不良や斃死が認められる箇所において、30cmほどの客土を実施している。これにより、客土前には確認できなかった稚貝の着底が認められ、多いところでは1平米あたり7000個にまで増加した。



### (2) 耕うん

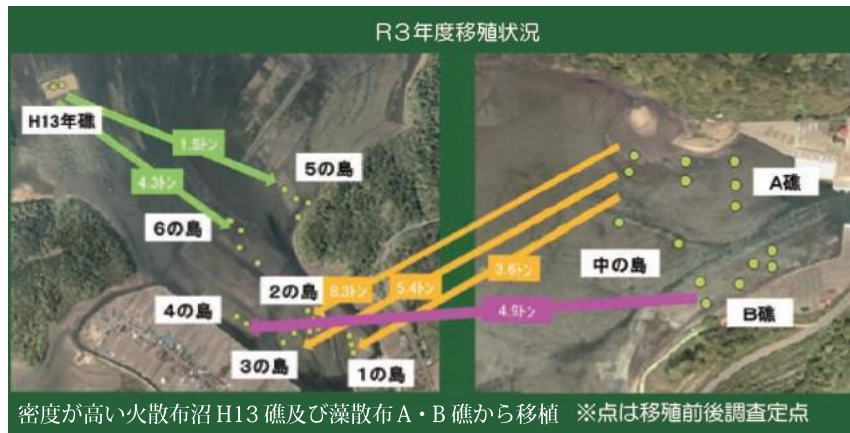
耕耘により、アサリの成長に悪影響を与える雑海藻類の除去や生育環境の整備を行っている

以前は手押し式の小型耕運機を用いていたが、作業効率と貝の破損が防止できる手法として、トラクターを用いることにした。



### (3) 密度管理

1平米あたり6.7kg以上の密度で稚貝が生息している地点を「過密」と定義し、密度が低い場所への移植を行うことで、密度管理を実施している。



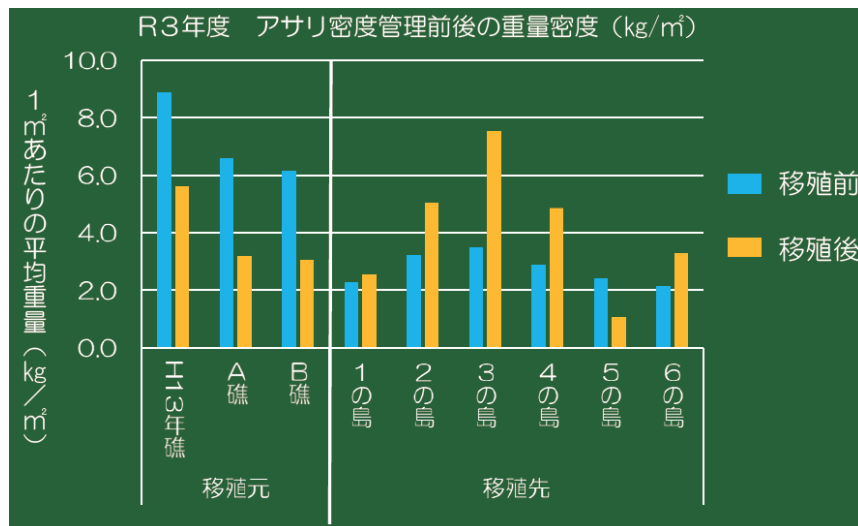
### (4) 教育活動

地域教育の一環として、干潟の一部を地元の学校に自主管理させている。また、平成27年からは実際に漁協に自主管理したアサリを出荷してもらい、流通構造などを学んでもらっている。

## 活動の成果と課題

### (1) モニタリングと活動の成果

モニタリング結果をみると、移植の前後の密度が調整され、移植元では過密水準である6.0kg/m<sup>2</sup>を下回り、好漁場である移植先の密度が増加している。また、資源量調査においても、漁獲対象サイズの資源量が300トン前後をキープできている結果が出ている。



### (2) 今後の課題

漁業者の感覚が「アサリは自然にわいてくるものである」から、「保全活動は資源を維持するために必要なこと」へと変化したことは、本事業の大きな成果である。

更なる発展に向けては、①稚貝の発生密度平準化、②移植後生存率の向上、③担い手の高齢化が課題となっている。今後も継続して後継者が参入できるような資源と環境を残していくことが、今の私たちの責務である。